



MINATO

みなとユネスコ 会報

Bulletin

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY / MINATO UNESCO ASSN. 16-3, SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004 / HIROSHI NAGANO PRES.
発行所 / 港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 Tel: 03-3434-2300 Fax: 03-3434-2233 発行人 / 田部葵一郎
Mail: m-info@minatounesco.jp https://minato-unesco.jp

2023年12月1日発行 第174号

目次

P. 1-2 巻頭言	P. 8 書道教室
P. 3 オリジナルトートバッグ作り	P. 9 みなと区民まつり/フェスティバルーン
P. 4-6 関東ブロック・ユネスコ活動研究会	P. 10-12 MUA サロン・怒りと向き合う
P. 7 坐禅体験講座	P. 13 山本俊介会員を偲ぶ/ P. 14 事務局便り

ユネスコ協会との出会い、そして今 明治学院大学教授（港ユネスコ協会理事）渋谷 恵



「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない（ユネスコ憲章前文）」

この言葉を初めて知った時、その意味するところに強く引き付けられました。その後、大学での授業で国際教育について学ぶ機会があり、日本では民間ユネスコ活動が活発であり、全国各地でユネスコ協会が活動していることを知りました。私も参加してみたい！と思い、当時、学んでいた筑波大学の近く、土浦市のユネスコ協会に電話で申し込んだことがユネスコ協会との出会いです。

その後、何度も協会の集まりに参加しましたが、学生会員は私一人。私にとっては大学を超えた社会人の皆さんとのつながりの場でもありました。また代々木のセンターで開催されたブロック大会などに参加させていただき、各地から集まった学生と平和の定義について議論をしたり、難民支援のためにできることをワークショップ形式で考えたり、大学では得られない学びの機会を得ることができました。

ブロック大会で出会った仲間とともに、ユネスコによる1974年の国際教育勧告（「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由についての教育に関する勧告」）を英語と日本語で読んだのも、その頃です。すべての段階・形態の教育に世界的な視点を取り入れること。文化や価値の理解とともに世界的な相互依存関係を自覚すること。個人が自分の所属する社会・国・世界の課題の解決に参加すること。国際教育勧告が、今後の教育政策の主要な原則として指摘した点は、まさに日本の教育にとって必要なものではないかと感じました。今ふりかえてみると、ユネスコ協会を通じて得た人とのつながりや学びの蓄積が、大学院で比較・国際教育学を専攻し、マイノリティ教育、多文化社会の教育を研究していく原動力の一つになったのだと思います。

現在、私は明治学院大学心理学部教育発達学科に所属し、主として国際教育に関わる「多文化共生教育」「教育の国際比較」などの授業を担当しています。大学を出てから、しばらくユネスコ協会の活動から離れていましたが、この度、新たに港ユネスコ協会の会員となり、また理事としても務めさせていただくこととなりました。私が大学時代に経験したユネスコ活動の楽しさや意義を、今の学生たちにも伝えていけたらと考えています。

(P.2へ続く)

文化体験教室委員会

夏休みの思い出作りワークショップ「オリジナルのトートバッグ作り！」

主催 港ユネスコ協会、共済 港区教育委員会、協力 株式会社TOKYO TOWER

日時：2023年8月27日（日）11：30～14：30

会場：東京タワー FOOT TOWN 2階通路スペース

内容：

無地のトートバッグをキャンパスに見立て、アクリル絵の具を使用して自由に絵を描き、オリジナルのトートバッグを作りました。（完成したトートバッグをP.3で紹介しています）

参加者：（事前募集）第1回5名 第2回5名 第3回5名 第4回5名 20名
（当日募集）東京タワー来場者に加を呼びかけて募集 8名。 合計 28名

対象： 3歳以上

参加費： 1,500円

講師： 盛岡くるみ氏（株式会社オカモトヤ）

担当スタッフよりひとこと：

開催場所は東京タワーでした。タワー2階、土産物売り場の通路という特殊な場所で行いました。タワーの見学を終えた人たちが大勢行き来する、宣伝効果抜群なところですよ。開催日は日曜日で、トートバッグ作りの周りも賑やかでした。

参加者を4回に分けて募集、安全に配慮しながらの進行となりました。参加のお子様28名にはご両親や祖父母の方が付き添われ、作業場は混雑しましたが、滞りなく行う事ができました事は何よりの収穫でした。

絵には個性が発揮され、動物の絵やタワーなど、世界でたった一つのトートバッグが完成しました。出来上がったバックを見て喜ぶお子様を見て、良い企画だったと思いました。

今回会場で、飛び入り参加者を募集することも企画の特徴でした。その中には中国パルビンから旅行中の女性2人が参加されました。日本旅行の楽しい思い出になった事と思います。

この度、素晴らしい企画をご提案くださいました株式会社オカモトヤ様、そして会場をご提供いただいた東京タワー様をご紹介くださいました常任理事の石井義明様に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

（理事 平方一代）

（P.1 「ユネスコ協会との出会い、そして今」から続く）

現代の世界情勢をみると、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナの紛争など、世界各地で平和が脅かされている事実が圧倒されます。また国や地域の争いではなくとも、様々な紛争や対立、迫害、貧困などにより、人々の人権と基本的自由が脅かされている状況が国内外に多く存在します。こうした時代であるからこそ、改めてユネスコ憲章の「平和のとりで」の意味を思い起こし、私たちができることをともに考え行動していくことが必要なのだと感じます。

折しも2023年11月の国連第42回総会にて、1974年国際教育勧告の改訂として「平和と人権、国際理解、協力、基本的自由、グローバル・シチズンシップ、持続可能な開発のための教育に関する勧告」が提案されています。これを一つの契機として、多くの人々が改めて平和と人権に関する学びを深め、ユネスコ協会や職場、学校、地域など、身近なところでできるアクションを考えていければと思っています。

完成したトートバッグのアルバム



<作成風景> うまくできるかな？

2023年度 関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東京

日時：2023年9月3日（日）10時00分～17時30分

（交流会 18時～20時）

会場：青山学院大学（17号館 本多記念国際会議場）

主催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟／関東ブロック・

ユネスコ連絡協議会／東京都ユネスコ連絡協議会

後援：東京都教育委員会／渋谷区／渋谷区教育委員会／青山学院大学



2023年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東京が、渋谷区に所在する青山学院大学で開催され、約500名の参加者に恵まれました。今年度より、前港ユネスコ協会会長（現顧問）の永野博氏が、東京都ユネスコ連絡協議会の会長に就任されたこともあり、港ユネスコ協会からは多くの会員が参加されました。私自身も個人的には、1997年11月に開催された民間ユネスコ運動発祥50周年『グローバルアクション21』の実行委員長を務めて以来の大きなイベントの参加となりました。

当日の主なカリキュラムと内容は以下の通りでした。

■10:00～12:00 関東ブロック・ユネスコ青年活動研究会



玉川大学他、大学の各ユネスコクラブや各ユ協の青年たちが中心となり、連携し学び合う青年活動研究会が開催され、投影資料などを活用して講演や積極的な交流が行われました。私も会場の外から拝見・拝聴しましたが、皆それぞれが意見を持ち、「教育の未来」や「異文化理解」等について真剣に向き合う姿がとても印象的でした。

■13:00～13:00 開会式 主催者挨拶・来賓挨拶



開会式は、ユネスコの歌を会場参加者全員で斉唱した後、東京都ユネスコ連絡協議会会長の永野博氏、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟会長の佐藤美樹氏より主催者挨拶があり、その後、来賓から、文部科学省国際統括官日本ユネスコ国内委員会事務総長渡辺正美氏、東京都教育委員会教育長浜佳葉子氏（代理）、渋谷区長長谷部健氏、学校法人青山学院院長山本与志春氏より来賓の挨拶がありました。ユーモアに溢れ、イベントに対する温かい思いが込められたスピーチには大変感服しました。

■13:30～14:40 特別講演 講師：コシノジュンコ氏

特別講演は、コシノジュンコ氏による『ファッションの持つエネルギー』でした。

過去から現在の映像とともに、テンポよく講演されていくコシノジュンコさんのスピーチには、時の流れを忘れるほどの魅力があり、あっという間の約1時間の講演でした。1978年のパリコレクションから現在に至るまでの映像もとても印象的でしたが、中でも心に残ったことは、コシノジュンコさんのお言葉。それは、「（実際）見て、感じることの素晴らしさ」についてでした。我々のボランティア活動にも通ずるところがありますが、『机上で考え、先入観を持つこと』よりも『（実際）見

て、感じること』がいかに大事であるかを改めて考えさせられました。最後にコシノジュンコさんからのメッセージとして、「か（感謝する）・き（希望を持つ）・く（くよくよしない）・け（健康は大事）・こ（行動する）」をいただきました。とても魅力的で貴重な講演でした。

■14:40～15:15 報告

（日本ユネスコ国内委員会／（公社）日本ユネスコ協会連盟／都ユ連 2000 人プロジェクト）

最初に公益社団法人日本ユネスコ協会連盟評議員であり、高崎ユネスコ協会事務局次長である松本千恵子氏より、UNESCO や日本ユネスコ国内委員会の最近の動きなどの報告がありました。その後、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟報告として、笠原氏より、これからの時代におけるユネスコ活動の推進のお話しや、未来遺産運動、ユネスコ協会・ウクライナ募金など公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の最近の動きなどについてご報告があり、最後に山田祐子氏より、都ユ連 2000 人プロジェクトの報告がありました。報告を拝聴し、『今、ともに何ができるのか』を考え、活動できる仲間が増えることを期待したいと改めて感じました。



■15:30～16:40

第1 分科会「異文化理解・国際交流」

茨城県/ 土浦ユネスコ協会「ウクライナ支援コンサート」

栃木県/ 佐野日本大学中等教育学校・佐野ユネスコ協会

「生徒の心に平和の砦を築くために～『What's your World Peace? アートフェス』実施報告～」

第2 分科会「世界遺産・未来遺産」

千葉県/ 柏ユネスコ協会「こんぶくろ池自然博物公園～市民で育てる百年の森プロジェクト～」

群馬県/ 沼田ユネスコ協会「未来遺産 沼須人形芝居あけぼの座の活動と沼田ユ協の連携」

第3 分科会「科学・環境、ユネスコスクール」

東京都/ 港ユネスコ協会「平和を考えるシンポジウムシリーズの開催・東京海洋大学との共創」

埼玉県/ 蓮田・白岡地方ユネスコ協会

「私たちの活動として『学校支援協力活動』に於けるユネスコスクールとの取り組み」

15:30 以降は、各分科会に分かれ、講義を受ける形式でした。私は、第3 分科会「科学・環境、ユネスコスクール」に参加しました。2 部構成になっており、前半は、港ユネスコ協会の「平和を考えるシンポジウムシリーズの開催・東京海洋大学との共創」についてでした。東京海洋大学の学生のスピーチは、ユーモアを交え、わかりやすく日頃の活動について報告がなされました。後半は、埼玉県/ 蓮田・白岡地方ユネスコ協会による、「私たちの活動として『学校支援協力活動』に於けるユネスコスクールとの取り組み」でした。現在高齢化している、地域のユネスコ活動にフォーカスし、現在抱えている課題として、継承者になる若い世代が少なく、活動の質の維持が難しいことや、新時代への挑戦として、教育機関や地域ボランティアの連携、「地域学校協働活動」をする上での情報共有などについてお話がありました。

■16:55～17:30 閉会式

分科会報告

青年評議員会報告・青年活動報告

次年度開催地挨拶 茨城県ユネスコ連絡協議会

閉会挨拶 実行委員長 池田敬介氏



最後に閉会式。代表者による各分科会（第1分科会～第3分科会）の報告がなされ、その後、青年評議員会報告・青年活動報告がなされました。関東ブロック青年評議員である吉田理沙子氏より、青年評議員について？全国的青年連絡組織とは？ブロックの青年活動例（渋谷ユネスコ協会の小学生の出前授業をはじめ、名古屋ユネスコ協会青年部、岡山ユネスコ協会などの取り組み）などの発表とともに、青年部の現状や今後、各ユ協・クラブ、そして、青年の声を聴いて連携することの大切さについてお話がありました。茨城県ユネスコ連絡協議会からは、次年度開催地の挨拶があり、最後に閉会挨拶として実行委員長の池田敬介氏の熱いメッセージで締めくくられました。

最後に閉会式。代表者による各分科会（第1分科会～第3分科会）の報告がなされ、その後、青年評議員会報告・青年活動報告がなされました。関東ブロック青年評議員である吉田理沙子氏より、青年評議員について？全国的青年連絡組織とは？ブロックの青年活動例（渋谷ユネスコ協会の小学生の出前授業をはじめ、名古屋ユネスコ協会青年部、岡山ユネスコ協会などの取り組み）などの発表とともに、青年部の現状や今後、各ユ協・クラブ、そして、青年の声を聴いて連携することの大切さについてお話がありました。茨城県ユネスコ連絡協議会からは、次年度開催地の挨拶があり、最後に閉会挨拶として実行委員長の池田敬介氏の熱いメッセージで締めくくられました。

■18:00～20:00 交流会 レストラン SINONOME（旧青学会館3階）

交流会は昔からの仲間と会う貴重な機会となりましたが、と同時に、日頃なかなか情報交換ができない様々なユ協の会員と交流することができ、新たな出会いもありました。



全体として、各ユネスコ協会の活発な活動報告等からは得るものが多く、各ユ協の会員も積極的にこのような交流の場に参加することは非常に有意義であると改めて痛感しました。また、各ユ協の高齢化の進行は大変気になりました。若かりし頃ユースとして活動していた私も3年後には還暦を迎えます。今後このような活動をいかに次世代に承継していくことができるかが課題だと思いました。あくまでも個人的な意見にはなりますが、海外の大学等のようにボランティア活動の単位認定取得や、小・中学校においてボランティア活動に触れる機会が増えることに期待したいと思います。学校教育と社会教育の連携の必要性についても考えさせられる一日になりました。今後私たち一人一人が次世代のために何ができるのか？都ユ連の2000人プロジェクトにも期待したいと思います。

（港ユネスコ協会副会長／東京都ユネスコ連絡協議会理事 峰尾茂克）

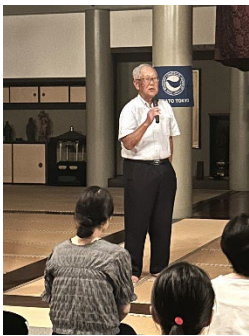
坐禅体験講座

日時：2023 年 9 月 29 日（金）18：30～20：00

会場：港区内 萬年山 青松寺

今回で 4 回目を迎える青松寺での坐禅講座である。コロナ渦が開けてひさびさの開催ということで沢山のご応募を頂戴し、いかに一般の方達から注目されているかを理解した。日々の雑踏、慌ただしい日常に追われていれば、静かな時を過ごすことも、瞑想するのもそうそうできるものじゃない。

青松寺のまわりは愛宕神社や増上寺など、静寂に囲まれて当然のような立地ではあるけれど、少し引いてみればやはり港区の中心地というだけあって経済と観光がひしめいているのである。



その雑多な中、どっしり構えた仏閣の門をくぐり厳粛な時間を過ごせるというのは、どんなに一般の興味を引くことかと思う。よくは知らないけれど、あそこの中は清いものが満ちあふれ、僧侶と一緒に着座すればストレスなど吹っ飛んでしまうにちがいない。そう思わせるミステリアスが禅寺には漂っている。

私を含めそう願うかたたちが「ぜひ参加をお願いします」と、お申し込んだこのたびの坐禅講座なのかと思う。予想を上回る応募者を苦渋の決断で抽選し、ラッキーな 65 人と一緒に坐禅の会であった。



青松寺では毎月定例の坐禅会が開催されているとのことだから、誰でも気軽に参加できるチャンスはある。今回抽選にもれてしまい、来年まで待てない。というかたはぜひ、ネット検索して情報収集して下さいと思う。

坐禅を組む。という機会を与えて下さった青松寺並びに関係者のかたがたへ心より御礼を申し上げる次第である。

（広報・インターネット委員会 石合和世）

文化体験教室委員会
書道教室

日時：2023 年 10 月 7 日 13 時 30 分～16 時 00 分

会場：港区立生涯学習センター304 号室

このイベントは日本の伝統文化であり国の登録無形文化財でもある書道を通じて日本の文化の理解や外国人と日本人との交流を促進させることを目的に開催されました。今回も金田翠夢先生を講師にお迎えし、6 名の外国人を含む 26 名の参加者が書道を楽しみました。

実施内容：

- ・ 書道や書道具の説明
- ・ お手本を見ながらさまざまな字や書体を半紙で練習
- ・ 好きな字と書体を選んで色紙に清書し、「寿」「吉祥」「夢」いずれかの落款印を押して作品を完成

参加者の皆さんはたくさんのお手本の中から好きな字や書体を吟味し、数十枚もの半紙を使って静かに、熱心に練習していました。そして、いくつかの字や書体に挑戦した中から特に自分の気に入った字や言葉を選んで色紙の作品を完成させました。参加者の中には完成した色紙の作品だけでなく、練習で半紙に書いたたくさんの字の中から気に入ったものを記念に持ち帰る方もいました。

今回初めて書道に挑戦した外国人の参加者の方たちは、講師の金田先生や周囲の日本人参加者から漢字の意味の説明を受けながら興味深げに練習に取り組んでいました。参加者の皆さんは金田先生のご助言も得て満足のいく作品を仕上げる事ができたようです。一人一人に丁寧にご指導くださった金田先生と熱心にご参加頂いた皆さんに心より感謝申し上げます。



(文化体験教室委員会 横井彩)

みなと区民まつり

日時： 10月7日（土） 11:00～17:00
10月8日（日） 10:00～16:00
場所： 芝公園 みんなの広場



10月にしては暑い日でした。コロナの規制がとけ、公園は大勢の人でにぎわいました。テント内では各委員会の活動パネルを掲示し、「入会案内」や催しのチラシの配布を行い、港ユネスコ協会の紹介をいたしました。

ミニバザーにも多くの方が立ち寄られました。このような陽気では、冬物は売れ残ると思っていましたら、太めの方が細身のダウンコートを無理やり試着し、買っていかれました。後で返品に来られるのではないかと、ヒヤヒヤしましたが。

事務局から公園までの、労力のいる運搬・撤去、品物の提供、楽しくなるほど上手な販売など、ご協力いただいた会員の皆様ありがとうございました。おかげで昨年より収益が伸びました。

（みなと区民まつり等委員会 磯部豊子）



フェスティバルーン

日時： 10月19日（木） 16:00～20:00
10月20日（金） 11:00～20:00
場所： ばるーン館内およびグラウンド

今年は「港区立生涯学習センター（ばるーン）」が開設されて25周年を迎え、特別に前夜祭も行なわれました。文化祭ともいえる「フェスティバルーン」は、館内を利用しているクラブの発表（展示・室内公演）、外ではステージ公演、地元の商店や姉妹都市の物産展など、多くのテントが準備されました。「港ユネスコ協会」では、3F事務局前に各委員会の紹介パネルを掲示し、グラウンドでミニバザーを行いました。

お客様の中には、とんかつ屋のママが「雰囲気ピッタリのスーツ」を、焼き鳥屋のおにいちゃんが「はちまき用の粋な手ぬぐい」を選び購入してくれました。新橋ならではのお客様層でした。運営を担当して下さった（びばるーン）の職員の方々、販売をお手伝いいただいた会員および事務局の皆様、ありがとうございました。

5月・10月のバザーの収益は集計し、経費を除き、支援団体へ寄付いたします。皆様のご協力が、難民・避難民支援に少しでも役立つことを願っています。

（みなと区民まつり等委員会 磯部豊子）

世界を見よう！ みなと UNESCO サロン for SDGs
怒りと向き合う 原爆の話から私たちの怒りへ

講師：手塚 千鶴子氏

日時：2023年10月11日（水）午後6時30分

会場：港区立生涯学習センター3階 305室

「原爆」は重大な問題として文学、マスコミ、博物館等に取り上げられていますが、その「原爆」に対して「日本人の怒りはどこに行ったのだろうか」に焦点を当て研究されてこられた手塚千鶴子先生に、「日本人の怒りとの付き合い方を問い直す」をテーマでお話を伺いました。

プロフィール：1986年ミネソタ大学教育心理学博士号取得。帰国後慶応大学にて日本人と留学生共習の「日本人の心理学」「異文化コミュニケーション」等の授業と、主に留学生のカウンセリングを担当。元日本語・日本文化教育センター教授。地域にも開かれた学外の一軒家での「三田の家」プロジェクトでは、日本人と留学生との交流の場を運営。近著に「原爆をめぐる日本人の語り 怒りの不在の視点から」

戦争について私達はどれだけ知っているだろうか。

アメリカ軍は爆撃機、戦闘機、船などの攻撃力、パイロットの安全性を最優先。エノラ・ゲイ号はその最前線で「超空の要塞」と呼ばれたほどである。ドイツ軍人は「敵を殺せ」と命じられた。それに対して日本軍は「殺すこと以上に死ぬことの大切さ」を強調。日本人の桜への美意識を利用した軍国主義により、兵士達は潔く散ることを求められた。こうした日本軍の戦争実態を見るにその理不尽で無謀な戦争に対し、怒りや抵抗がなぜ起こらなかったのか？この疑問が日本人の怒りや対人葛藤処理のあり方への問いを手塚氏に生じさせたという、こうして講演が始まりました。

日本人の戦争の語り 原爆投下後まもなく終戦となったこともあり、日本全体では原爆投下の是非を問うことが少なく、「原爆の悲惨な被害の記憶や物語」の方が多いのではないだろうか。また原爆を投下したアメリカの科学と物量に負けたという意識が強く、真の意味での戦争責任と向き合うことが不十分との指摘があるという。又、多くの日本人が「だまされた」との意識が強く、自身どうすべきだったかの考察が欠けているとの指摘も多いという。

外国人が驚く日本人の戦争の語り 外国人から見ると日本人は大きな抵抗なく戦争に参加したはずなのに、自分たちが行った戦争というより突然降りかかった自然災害のような語が多いことに驚くという。その語りの内容は個人的体験に話が終始し、戦争の原因や責任など大きなテーマを語る日本人が少ないことも不思議に感じるという。

他方、米国人の真珠湾奇襲ゆえの日本人への憎しみに対比し、米国に向かわなかった日本人の怒りは、原爆という核兵器や、戦争そのものの残虐性に向かい、戦後の反戦平和の流れにつながったとダワー氏が見る。原爆投下を西洋は「虐殺行為」と見定めたが、日本人は「不可抗力、仕方がない」と捉え、戦後の原爆映画には「もののあはれ」の感覚をあてはめたと見る映画評論家もいる。手塚氏は、以上を考察し「当事者意識の欠如、自然災害をはじめ不測の事態は『しかたがない』と受け止めあきらめる日本人の傾向」を見いだす。

戦争博物館での語り 現在の「広島平和記念館」被爆者の視点からの、被爆の実相展示がメインであり、その中心である「魂の叫び」の展示では、被害の悲惨さが強調され、いたいけな子



供達に焦点を置いている。「怒り、恨み、復讐」の気持は表現されず、「投下責任」の議論もされていない。一方、スペインのゲルニカへの無差別襲撃に接し怒りとともに製作され、世界の反戦運動のシンボルになったピカソの「ゲルニカ」を当日紹介された。

原爆小説の語り 長岡弘芳氏の「戦後 23 年、日本文学は原爆被爆当時の骨がらみの国民的無念を投下当事国に真っ向から叩きつけた一遍の戦後作品すら有していない」との言葉を紹介した上で、手塚氏は、「夏の花（原民喜）」「黒い雨（井伏鱒二）」「屍の街（太田洋子）」をはじめ原爆小説全体に「原爆や原爆投下国への直截な怒りは例外を除き少ない。時に怒りは苦しみをもたらした相手でなく自分にも向けられてしまうなど、内向し、屈折している。」と説明された。

原爆の語りにおける怒りの不在の意味・理由

占領時代の社会的・心理的背景 占領軍は、周到な準備の上で、新聞、雑誌、書籍、ラジオ、映画、郵便など広範囲の検閲を日本人 8 千人を動員して実施したが、メディアからの抵抗や批判はほぼなかった。この検閲のため、原爆惨状の写真の初出は 1952 年 8 月 6 日の「朝日グラフ」とかなりの時間がたってのこと。検閲への抵抗がなかった背景には、戦争が終わり安堵感と虚脱感、生きることに必死な日々、起こってしまったことを思い煩い怒るエネルギーはなく、また占領軍との比較的良好な関係があったのではと、手塚氏は見る。

文化心理学から読み解く「怒りの不在」 人の心は普遍的だが、どう意味づけられるかは文化による。西洋文化圏では、自己は周りから切り離された存在、自己の欲求、ニーズ、ゴールなど自分らしく実現することが求められる。一方、日本を含む東洋は、自己は関係性の中に組み込まれた存在としてとらえられ、協調的に生きることが求められるという。相互協調的自己観の優勢な日本では「怒りは関係性を壊しかねない」と否定的に捉えられ、経験や表現が抑えられがちになる」という。

悲しみを手がかりに怒らない日本人の心理を考える。 2003 年に日本人の怒りを多文化の視点から考えるワークショップを開催された際には、「日本人の怒りには悲しみがはりついている」「日本人は怒りを認めることも気づくことも難しい」と日本人セラピスト達よりコメント頂いたという。また「広く日本社会全体に怒りの否認を見いだしている」ユング派の織田尚生氏の事も紹介された。

西洋のグリム童話「蛙の王様」と日本の昔話「鶴女房」の比較 誰が約束を破り破られたか、怒りや罰はあるのか、物語の結末はどうなるのかという点で比較すると、二つの昔話には「怒り」の捉え方の違いが見いだされるという。グリム童話に見られる「肯定的意味づけ」に対し、



「鶴女房」への女子留学生の興味深い反応を紹介された。約束を破った夫に対し、怒りもせず

立ち去っていく鶴女房に異を唱え、「私なら絶対怒る、夫を問いただしよく話をすれば、きっとわかりあえ別れないですむ」という主張である。「日本の昔話においては話の完結に際して聴き手の心に生じてくる悲しみの感情が大切」と河合隼雄氏の論も紹介された。

日本人の悲しみとの親和性 竹村整一氏は、悲しみは日本文化に親和性が高く、日本人はそれを積極的に享受し、表現してきたとし、加藤周一氏も「かなしみを受け入れそれを楽しみとさえする態度や感情」は、「あわれ」「はかなし」「あきらめ」など多様な言葉で表現されてきたという。それに対し手塚氏は、怒りを率直に表現し、言葉のやりとりを尽くすよりは、悲しく美しい終わりを、無意識的に日本人は大事にするのだろうか？しかし、多様な価値観やバックグラウンドを持つ人々と共に生きていく多様性の現代にそれでよいのだろうかとの問いを投げかけられた。

日本人の怒りとの付き合い方を問い直す。「はだしのゲン」も参考に 怒りとは心理学的には、「傷、欠如、フラストレーション」などから生まれる否定的感情と言えるが、それを受け入れ向き合えば自分を明確化し、人としての統合性を促してくれる。怒りは単純に悪いのではなく大事なことを教えてくれるのではないかと説明された。そして、漫画「はだしのゲン」より怒りと本音での対決がゲンと被爆者政二に心を開く理解をもたらしたエピソードを紹介された。

まとめ、私達はどうか怒りと向き合っていきたいか

「怒ろう」という絵本の著者パルマー氏は「ゲンの怒りは自然であり自分を大切にしようとする気持のあらわれ」だとするが、手塚氏は相手に怒りを上手く伝えることは、怒りを否定的に捉えがちな日本人には大きな課題ではないかと語られた。

怒りの表し方の3タイプには、怒りを感じても表せない「抑圧タイプ」、ささいなことで切れる「激怒タイプ」、自分の気持を適切に伝えられる「理想タイプ」がある。自分の怒りを受け止め、向き合い、何がいやだったのかを具体的に、適切なタイミングで、相手を責めずにIを主語に、アイ・メッセージで穏やかに伝えることが大事というポイントを紹介された。

多くのアンケートを頂きました。 原爆や戦争は個人の悲惨な体験がたくさん語られていて片寄った情報が伝えられているのだと感じました。怒りの大切さ。怒ることの難しさ。原爆を投下されたことに対し、米国に対し怒らない日本人に前から疑問を持っていました。日本の価値観と大きく関係していること。怒りには潜在的怒り、激怒、適切な自己表現としての怒りがあること。これからの多様性の時代にあって、日本人の怒りとの付き合い方も変わっていくのだろうか？怒りより悲しみに重きをおくのは日本人独特だと知り、驚くと同時に改めて怒りについて考えさせられました。いろいろな文学を引き合いに出して日本人の性壁につき分析して頂き、大変参考になりました。(一部をご紹介します)

私自身の経験で「怒り」を表さず、誤解を与えてしまったことがあります。意思表示の一つとして明確に気持を伝える、その手段としての「怒り」があるのだと考えさせられる一日でした。

戦後問題を取り上げる中、日本人の性格についての分析にも迫るテーマでもありました。氏から今日の多様性・グローバリゼーションの時代に「日本人はいかにして怒りを伝えていったらよいのか？」の問いかけに対して、私たち一人一人が向き合い考えていくのに参考になるよく分析された講演内容とヒントを頂きましたこと、会場の皆さまからの御礼の意味での大きな拍手が贈られました。

予 告

本日のサロンの続きとしてシンポジウム「日本人の戦争との向き合い方を考える(仮題)」(2024年3月7日(木)午後6時30分)を予定しています。港ユネスコ協会のホームページにてご案内いたします。ご期待下さい。
(会員開発委員会 担当副会長 小林敬幸)

山本俊介さんを偲んで

会員の山本俊介さんが、9月13日享年94歳で永眠されました。山本さんは清水建設常務取締役技師長を歴任、在職中の1970年大阪万博では5つの外国館を担当されました。退職後は「山本デザイン研究室」を主宰、デザインの仕事をされながら毎年展覧会やスケッチ展に油絵、水彩画やスケッチを発表されました。また、当港ユネスコ協会では2008年9月25日、MUAサロンにて、「異文化への旅」と題したお話をしていただいた事を思い出します。

山本さんといえば、絵の才能は勿論ですが、そもそもは写真愛好家だったそうです。陸軍幼年学校の頃から写真を撮り続け、東大在学中は3年間写真部に所属し、留学先のアメリカでは「ニコンSP」片手に全米一周され、その時の写真は帰国後、朝日ジャーナルに掲載されました。

「建築の設計という、社会との関わりの多い仕事をしてきた私の絵の主題は、理解しやすく人間が描かれている具象画です」とおっしゃっていた山本さんは、代表作「アドリア海の風」(100号油絵)にて2017年、文部科学大臣賞を受賞。当該作は2021年10月の港ユネスコ協会「創立40周年記念誌」の表紙にも採用させていただいております。

「当日までいつも通りの生活を送り、ダイニングで夕刊を読み、ソファに移動してテレビを見ながらの、安らかな旅立ちでした」。そう書かれた、奥様から頂戴したお葉書を読んだ瞬間、年賀状、案内状、お礼状などはすべて奥様が担当してくださるので助かっているのだとおっしゃっていた、山本さんのお幸せそうなお顔が思い出されました。

思い出は尽きません。どうぞ安らかにやすみください。合掌

理事 平方一代

(港ユネスコ協会 創立40周年記念誌より)

アドリア海の風

山本俊介



1995年に銀座の大蔵画廊でスケッチ画の個展を催したのが、私の個展のはじまりです。清水建設の常務・技師長を勤めていて、海外出張も多く、スケッチブックに描いた淡彩の作品が好評で、思い切って個展を2年毎に開催する事にしました。多くの愛好者が見に来て下さり、画廊主もはじめての経験だと驚く程でした。港ユネスコでは、第11回MUAサロンで、テーマ「異文化への旅」と題して、2008年9月25日に、米国留学のこと、1970年の大阪万博では5つの外国館を担当したこと、フセイン大統領時代のイラクでの話などをさせて頂きました。

清水建設退職後、水彩スケッチに油絵が加わります。水彩は透明な画材を使って描き、白い画面との関係を考慮しながら仕上げます。油絵は不透明な画材を重ねて描いていくわけで、キャンパスは隠されてしまいます。海外に出かける時は油絵の画材は重すぎるので、水彩スケッチを完成度の高い描き方で描き、それを油絵に移すやり方をします。水彩画展を毎年行っている会は2つ、油絵の方は3つです。

東京都美術館「蒼樹展」には、油絵の上達のために100号の油絵を20年間にわたり出品し、数々の賞を受賞しました。2017年、文部科学大臣省が「アドリア海の風」に与えられ、40周年記念誌の表紙に使って下さる由で、感激しています。

事務局便り

【ようこそ新入会員】

個人会員：中嶋早紀子様(Website 申し込み)、小久保洋子様、松村みぎわ様(英語講座申込者)、家族会員：洲上貴史様(古市常任理事ご紹介)、学生会員：永島安紗様、森垣穂香様(Website 申し込み)、賛助会員：堀井健一様(石井常任理事ご紹介)

【開催中・募集中の事業】

- ☆日本語講座 田川純子先生 10/7 スタート(土曜日 10:00～) 10 回
- ☆ビジネス英会話講座 Robert Edward Shiffer 先生 10/5 スタート(木曜日 18:30～20:00) 9 回
- ☆TOEIC対策講座 中沢萬佐雄先生 10/2 スタート(月曜日 19:00～20:30) 9 回
- *語学教室の開催場所：港区立生涯学習センター3 階 港ユネスコ協会事務局内
- ☆茶道入門講座 小野 宗恵先生 10/23 スタート(第四月曜 14:00～16:30) 6 回
港区立生涯学習センター2 階 203 号室 *定員枠に達し、現在募集を締め切っています。

【今後の事業予定】

- ☆12 月 3 日(日)17:30～20:30 「インターナショナル・ウインター・パーティー」
会場：港区赤坂 赤坂区民センター多目的ホール
- ☆12 月 10 日(日)13:30～16:00 「第七回日本語スピーチコンテスト」
会場：港区芝浦 リーブラホール
- ☆12 月 17 日(日)9:30～15:30 「東京の森川海を知る」
会場：日の出桟橋、講師：佐々木剛氏(東京海洋大学教授)
- ☆1 月 17 日(水)18:00～20:00 会員懇親会「新年のつどい」
会場：NEC 三田ハウス芝俱樂部 4 階 華・舞
- ☆1 月 27 日(土)13:30～16:00 「茶の湯体験教室」
会場：港区立生涯学習センター203 号室、講師：村松宗幸氏
- ☆2 月 4 日(日)12:00～15:00 世界の味文化紹介「薬膳料理」
会場：港区芝浦 リーブラ料理室、講師：山口由美子氏(国際中医師、国際薬膳師)
- ☆3 月 7 日(木) 2023 年度シンポジウム「日本人の戦争との向き合い方を考える(仮題)」
会場：港区芝浦 リーブラ学習室 C

【ご寄付ありがとうございました】

- ★内藤清子様 1,000 円(「ミンダナオ子ども図書館」への寄贈の送料の一部に充てさせていただきます。)

【事業時の売上げ・寄付金】

- ★5/18「避難民支援バザー」 73,410 円、5/28「南インドの経済」 4,000 円、6/21「パラオに残る日本語」 2,300 円、7/7「楽しさ倍増の話し方」 2,000 円、10/7～8「みなと区民まつり バザー」 61,310 円、10/19～20「フェスティバルーン バザー」 42,900 円、10/11「怒りと向き合う」 6,300 円、10/29「イタリアオペラの風を感じて」 8,664 円
- ★売上金や寄付金は、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)などの支援団体を通じて「避難民支援」に、また日本ユネスコ協会連盟を通じて「災害子ども教育支援募金」に寄付しています。

【事務局の年末年始休日】

- ★12 月 29 日(木)～1 月 3 日(火)

港ユネスコ協会事務局 火曜日～金曜日(祝日を除く) 午前 10 時 30 分～午後 5 時
〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3 TEL : 03 (3434) 2300 TEL・FAX : 03 (3434) 2233
E メール : m-info@minatounesco.jp ウェブサイト : <https://minato-unesco.jp>

